

人生100年応援ファンド

(資産成長コース)

【愛称:みらいストーリー】

【運用報告書(全体版)】

(2021年3月16日から2021年9月15日まで)

第 **5** 期

決算日 2021年9月15日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限(設定日：2019年3月19日)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て) 主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券(ETF) マネー・トラスト・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託(リート)等に分散投資します。 ■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分+年3%程度を目指して資産配分を行います。 ■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年2回(原則として毎年3月および9月の15日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 率 比	投 資 信 託 証 券 組 入 率 比	純 資 産 額
		税 込 金	騰 落	中 率			
(設 定 日) 2019年 3月19日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 126	
1期(2019年 9月17日)	10,240	0	2.4	0.0	99.0	248	
2期(2020年 3月16日)	8,582	0	△16.2	0.0	98.7	288	
3期(2020年 9月15日)	10,481	0	22.1	0.0	99.0	400	
4期(2021年 3月15日)	11,882	0	13.4	0.0	97.5	423	
5期(2021年 9月15日)	12,820	0	7.9	0.0	97.7	538	

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 率 比	投 資 信 託 証 券 組 入 率 比
		騰 落	率		
(期 首) 2021年 3月15日	円 11,882	% —	% 0.0	% 97.5	
3月末	12,012	1.1	0.0	98.7	
4月末	12,196	2.6	0.0	98.9	
5月末	12,399	4.4	0.0	98.6	
6月末	12,579	5.9	0.0	98.9	
7月末	12,565	5.7	0.0	98.5	
8月末	12,658	6.5	0.0	99.6	
(期 末) 2021年 9月15日	12,820	7.9	0.0	97.7	

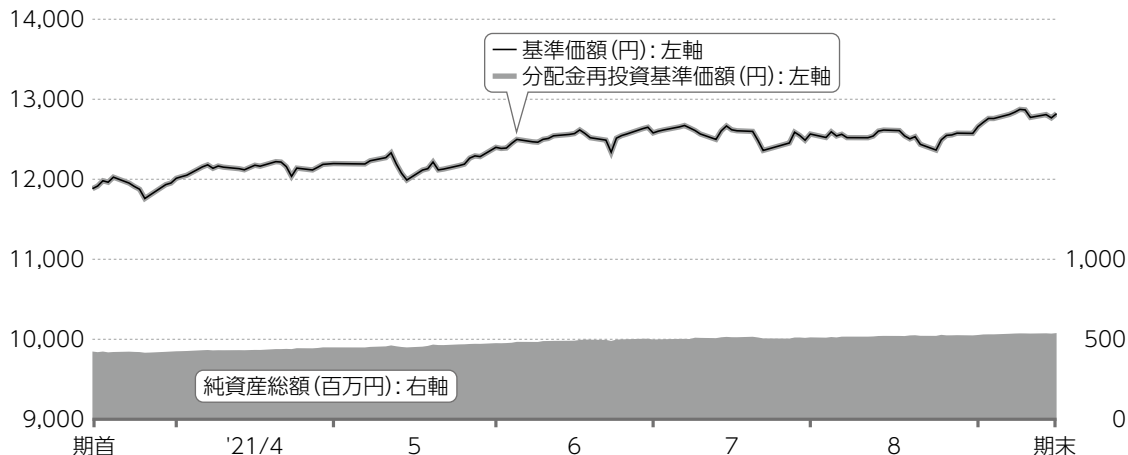
※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	11,882円
期末	12,820円 (分配金0円(税引前)込み)
騰落率	+7.9% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2021年3月16日から2021年9月15日まで)

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資を行う外国投資信託証券^{*}を主要投資対象としました。

なお、世界の債券に投資するETFについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。

^{*}外国投資信託証券の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

上昇要因

- 日本株式および先進国株式が上昇したこと
- 米国および日本のリートが上昇したこと
- 米国内債、投資適格社債、ハイイールド社債市場が上昇したこと

下落要因

- 新興国株式が下落したこと

投資環境について（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

株式市場においては、日本株式・先進国株式が上昇した一方で、新興国株式が下落しました。債券市場においては、米国長期国債市場は上昇しました。米国投資適格債券市場、ハイールド社債市場も上昇しました。リート市場では、日本、米国ともに上昇しました。為替市場では米ドルは対円で小幅に上昇しました。ユーロは対円で下落しました。

株式市場

日本株式、先進国株式市場はともに上昇しました。

期初もみ合いの後、4月に入ると、新型コロナウイルスワクチンの普及や米国の経済刺激策を受けた経済活動正常化期待から、米国はじめ先進国株式市場は反発しました。5月中旬に景気回復への懸念から米国を中心に大きく下落する場面がみられましたが、その後、長期金利上昇の一服を受けて反発、上昇しました。7月中旬にデルタ型ウイルスの感染拡大や米中関係の緊張などから株価が急落する場面があったものの、米国などでの堅調な企業決算等を背景に株式市場は反発しました。9月に入ると、米金融緩和策の縮小開始時期を巡る不透明感などを受け、軟調に推移しました。

国内株式については、感染拡大が収束せず、期初から8月にかけてもみあいでの推移を続けましたが、9月に菅首相が自民党首選への立候補見送りを表明すると、新政権に対する期待から株式市場は急上昇しま

した。

新興国株式市場は、ワクチン接種の遅れや、中国での経済減速懸念や当局による規制強化の動きを背景に投資家のリスク回避姿勢が重石となり、前期末比下落となりました。

債券市場

米国長期国債市場は上昇（金利は低下）しました。デルタ型の感染拡大、景気回復のピークアウト懸念、F R B（米連邦準備制度理事会）によるテーパリング（量的緩和の縮小）観測の後退などが上昇要因となりました。

米国投資適格社債市場および米国ハイールド社債市場は上昇しました。株価回復や堅調な企業決算、国債利回りの低下などが上昇要因となりました。

リート市場

リート市場は日本・米国ともに、上昇しました。

欧米での長期金利の低下を受け、世界的に利回り追求の動きに下支えされたことで、好調に推移しました。

為替市場

米ドル・円は、米国経済が早期に正常化するとの期待や、米国でのテーパリング観測、米中関係の緊迫化、デルタ型の感染拡大への懸念などの材料が交錯する中、レン

ジ推移となり、前期末比で米ドルは対円で小幅に上昇しました。

ユーロ・円は、期の前半はヨーロッパ経済が正常化に向かうという期待感などから対円で上昇しました。しかし、期の後半はECB（欧州中央銀行）の金融緩和政策が維持され、米欧の金融緩和姿勢に差異が生じたことでユーロが対米ドルで大きく売られ、対円でも下落しました。前期末比で見ると、対円で、ユーロは下落となりました。

ポートフォリオについて（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」を高位に組み入れて運用を行いました。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）

●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統的資産に加え、ハイイールド社債、新興国

株式、内外リートを加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組入れを行いました。

組み入れたETFは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動するもので、グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。

期初は、米国等における堅調な実体経済指標やバイデン政権の経済刺激策等に着目し、国内株式を2割程度、外国株式を3割強程度保有し、外国株式の比率をやや高めとした一方、市場のボラティリティ（価格変動性）上昇時のリスク抑制効果を企図して、

外国債券のウェイトを3割弱としました。なお、ポートフォリオの収益源を多様化するため、国内外のREITへ1割程度投資しました。その後、先進国株式や新興国株式のウェイトを引き上げた一方、欧米に比べてワクチン接種が遅れており、経済回復が相対的に遅れるとの懸念から、日本株式のウェイトを引き下げました。期中にかけては、ワクチン接種の進展により景気回復への期待が高まった日本株のウェイトを引き上げ、中期的に金利上昇（価格は下落）が

見込まれる債券のウェイトを抑制しました。期末にかけては、中国当局による規制政策を巡る不透明感から、新興国株式のウェイトを引き下げた一方、投資適格債券のウェイトを引き上げました。

マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2021年3月16日から2021年9月15日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2021年3月16日から2021年9月15日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第5期
当期分配金	—
(対基準価額比率)	(—%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,819

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスド・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーティング・クラス、円建て)

先進国では、変異型ウイルスの感染拡大や景気回復のピークアウト懸念など、投資家心理の下押し要因が見られます。ただし、良好な企業業績や積極的な財政政策などを背景に景気拡大が継続する可能性が高く、米国を中心に株式市場は底堅く推移すると考えます。新興国株式市場については、一部の国での感染再拡大や中国の規制政策を

巡る不確実性などから、上値が抑えられるとみています。

債券市場については、良好な経済ファンダメンタルズ(基礎的条件)や、今後金融政策が引き締め方向に向かうことなどを勘案すると、中期的には先進国の国債利回りは上昇基調となるとみています。社債市場は、低金利環境における利回り追求の動きが下支えするとみられます。

ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション(投資価値評価)等に留意しつつ、中長期的な目標リターンの獲得に向けて、リバランス(投資配分比率の調整)を実施していく方針です。当面の運用方針としては、市場環境を見極めつつ、慎重なリスク量の管理を行なっていく計画です。

マネー・トラスト・マザーファンド

引き続き、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

1万口当たりの費用明細（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	71円	0.571%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">期中の平均基準価額は12,401円です。</div>
(投 信 会 社)	(21)	(0.166)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販 売 会 社)	(48)	(0.388)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.017)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(先物・オプション)	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(－)	(－)	
(公 社 債)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(d) その他費用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 そ の 他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保 管 費 用)	(－)	(－)	
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	
(そ の 他)	(0)	(0.000)	
合 計	71	0.574	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

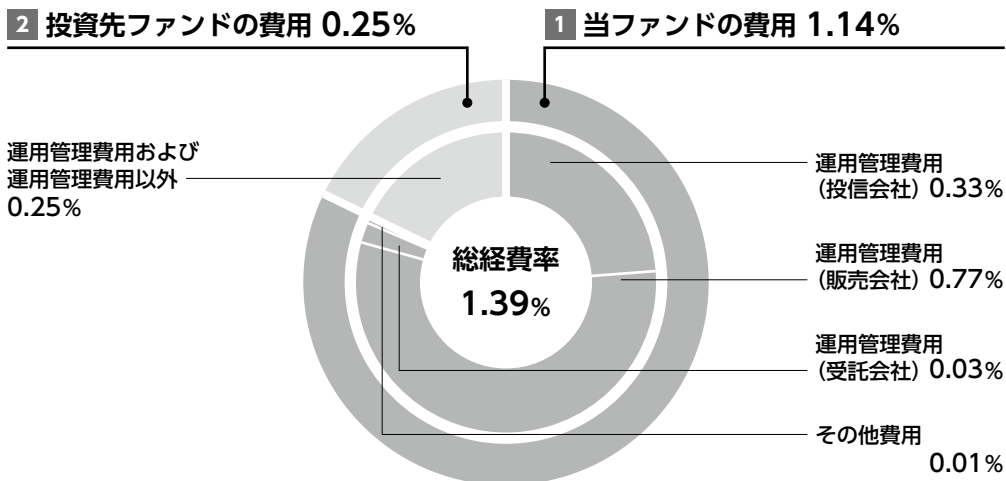
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率 (1 + 2)	1.39%
1 当ファンドの費用の比率	1.14%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.25%

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.39%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

投資信託証券

		買		付		売		付	
		口	数	買	付	額	口	数	売
				千円				千円	
国内	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）		7,366	93,800			1,482		19,000
合 計			7,366	93,800			1,482		19,000

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

■ 利害関係人との取引状況等（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

利害関係人との取引状況

人生100年応援ファンド（資産成長コース）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

マネー・トラスト・マザーファンド

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D C
公 社 債	百万円 8	百万円 2	% 25.0	百万円 -	百万円 -	% -

※平均保有割合 0.4%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期中における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

（2021年3月16日から2021年9月15日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2021年9月15日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)	期末		
	口数	口数	評価額	組入比率
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト/ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド (アキュムレーティング・クラス、円建て)	33,918	39,801	526,440 千円	97.7 %
合計	33,918	39,801	526,440	97.7

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種類	期首(前期末)	期末		
	口数	口数	評価額	評価額
マネー・トラスト・マザーファンド	64 千口	64 千口	63 千円	63 千円

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は15,836千口です。

■ 投資信託財産の構成

(2021年9月15日現在)

項目	期	末
	評価額	比率
投資信託受益証券	526,440 千円	97.1 %
マネー・トラスト・マザーファンド	63	0.0
コール・ローン等、その他	15,751	2.9
投資信託財産総額	542,254	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2021年9月15日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	542,254,435円
コール・ローン等	10,550,093
投資信託受益証券(評価額)	526,440,484
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	63,858
未 収 入 金	5,200,000
(B) 負 債	3,463,023
未 払 解 約 金	701,066
未 払 信 託 報 酬	2,748,676
そ の 他 未 払 費 用	13,281
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	538,791,412
元 本	420,279,869
次 期 繰 越 損 益 金	118,511,543
(D) 受 益 権 総 口 数	420,279,869口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)	12,820円

※当期における期首元本額356,336,477円、期中追加設定元本額100,991,242円、期中一部解約元本額37,047,850円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	当	期

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■ 損益の状況

(自2021年3月16日 至2021年9月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 3,724円
支 払 利 息	△ 3,724
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	37,314,263
売 買 益	38,721,468
売 買 損	△ 1,407,205
(C) 信 託 報 酬 等	△ 2,762,360
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	34,548,179
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	50,199,778
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	33,763,586
(配 当 等 相 当 額)	(21,528,312)
(売 買 損 益 相 当 額)	(12,235,274)
(G) 計 (D+E+F)	118,511,543
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	118,511,543
追 加 信 託 差 損 益 金	33,763,586
(配 当 等 相 当 額)	(21,528,312)
(売 買 損 益 相 当 額)	(12,235,274)
分 配 準 備 積 立 金	84,751,490
繰 越 損 益 金	△ 3,533

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※期末における、費用控除後の配当等収益（0円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（34,549,403円）、信託約款に規定する収益調整金（33,760,053円）および分配準備積立金（50,202,087円）より分配可能額は118,511,543円（1万口当たり2,819円）ですが、分配は行っていません。

■ 組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）
主要投資対象	主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF）
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主にブラックロック・グループが運用するETFであるiシェアーズを通じて様々な資産への投資を行い、値上がり益および利子・配当等収益からなるトータルリターンを獲得を目指します。 ・ファンドの想定リスクが大きくなる場合は、資産配分を見直し、現金等の保有比率を高める場合があります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・有価証券の空売りは行いません。 ・純資産総額の10%を超える借入れを行いません。
決算日	毎年12月の最終営業日
分配方針	分配を行わない方針です。
運用管理報酬	<p>純資産総額に対して</p> <p>運用報酬：年0.15%程度 （副投資顧問会社に対する報酬は、投資顧問会社の運用報酬より支払われます。）</p> <p>受託会社報酬：年間1万米ドル</p> <p>管理費用：最大年0.04%程度 （ただし、4万米ドルの年間最低報酬が適用されます。）</p> <p>名義書換代行費用：年0.01%程度</p> <p>ファンドが投資するETFにおいても運用管理費用がかかります。</p>
その他の費用	<p>ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
投資顧問会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッド
副投資顧問会社	ブラックロック・ジャパン株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋・要約して翻訳したものを記載しています。

■ 損益計算書（2020年1月1日から2020年12月30日まで）

（単位：円）

投資収益：

受取配当金（源泉税控除後：53,553,690円）

421,959,651

収益合計

421,959,651

費用：

投資運用報酬

31,694,902

管理事務代行及びファンド会計報酬

8,451,970

保管報酬

4,718,572

監査報酬

2,874,249

証券代行業報酬

2,365,140

トラスティ報酬

1,058,012

弁護士費用

507,860

支払利息

195,023

その他報酬

138,166

費用合計

52,003,894

純投資収益

369,955,757

実現利益

投資有価証券

67,107,326

外貨取引および為替先渡契約

(1)

純実現利益

67,107,325

未実現評価益の変動

投資有価証券

702,928,057

未実現評価益の純変動額

702,928,057

純実現利益および未実現評価益

770,035,382

運用による純資産の純増加

1,139,991,139

■ 投資明細表（2020年12月30日現在）

株数	銘柄	純資産 比率 (%)	時価 (単位：円)
	上場投資信託 (99.6%)		
	日本 (99.6%)		
636,602	iShares Core Japan REIT ETF	5.8	1,166,891,466
962,178	iShares Core MSCI Emerging Markets IMI ETF	10.3	2,082,153,192
2,108,077	iShares Core MSCI Kokusai ETF	26.2	5,280,732,885
2,478,907	iShares Core TOPIX ETF	22.7	4,590,935,764
420,458	iShares Core U.S. Treasury Bond	5.1	1,035,588,054
685,957	iShares MSCI Japan Minimum Volatility ex-REITs ETF	6.2	1,252,557,482
547,768	iShares U.S. REIT ETF	5.0	1,015,014,104
448,208	iShares USD High Yield Corporate Bond JPY Hedged ETF	5.3	1,066,286,832
973,291	iShares USD Investment Grade Corporate Bond JPY Hedged ETF	13.0	2,618,152,790
	日本合計（取得原価 18,018,751,485円）		<u>20,108,312,569</u>
	上場投資信託（取得原価 18,018,751,485円）		<u>20,108,312,569</u>
	投資合計（取得原価 18,018,751,485円）	99.6	20,108,312,569
	負債を上回る現金およびその他資産	0.4	84,975,731
	純資産	100.0	<u>20,193,288,300</u>

マネー・トラスト・マザーファンド

第5期（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年1月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 券 組 入 率	純 資 産 額
		騰 落 率	中 率		
(設 定 日) 2016年1月29日	円 10,000		% -	% -	百万円 10
1期（2016年10月12日）	10,001	0.0		80.4	10
2期（2017年10月12日）	9,992	△0.1		90.6	10
3期（2018年10月12日）	9,986	△0.1		68.2	10
4期（2019年10月15日）	9,980	△0.1		68.7	10
5期（2020年10月12日）	9,970	△0.1		74.8	12

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

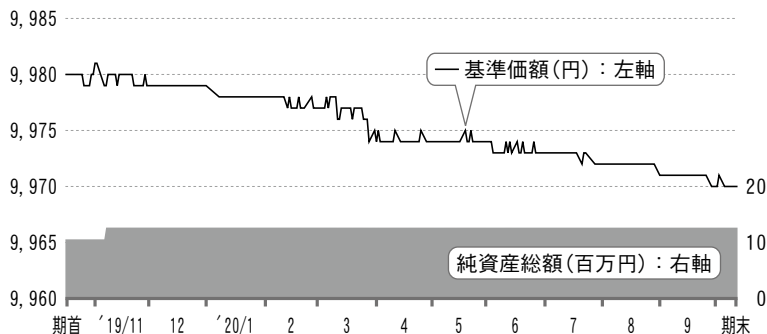
年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 率
		騰 落 率	率	
(期 首) 2019年10月15日	円 9,980		% -	% 68.7
10月末	9,981	0.0		68.6
11月末	9,979	△0.0		57.2
12月末	9,979	△0.0		68.4
2020年1月末	9,978	△0.0		68.4
2月末	9,977	△0.0		68.3
3月末	9,974	△0.1		69.3
4月末	9,974	△0.1		69.2
5月末	9,974	△0.1		72.5
6月末	9,973	△0.1		72.5
7月末	9,972	△0.1		72.4
8月末	9,971	△0.1		74.9
9月末	9,970	△0.1		74.8
(期 末) 2020年10月12日	9,970	△0.1		74.8

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

基準価額等の推移



期首	9,980円
期末	9,970円
騰落率	-0.1%

▶ 基準価額の主な変動要因（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

当期の短期金利は上昇しました。

物価上昇率の伸びが徐々に鈍化したことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大により景気が大きく落ち込んだことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を据え置き、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初から年末越えの運用ニーズが徐々にはく落するとともに上昇基調となり、12月初旬に-0.10%近辺となった後は横ばい圏で推移しました。しかし、2月下旬から世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大し、3月にはリスク回避の動きが強まったことから、安全資産としての短期国債への運用ニーズの強まりを背景に3月下旬に利回りは一時-0.40%台まで低下しました。過度な国債需給の引き締めりに対し、日銀が保有国債の売り現先（買い戻し条件付き売却）を断続的に実施したことから徐々に需給が緩和し、利回りは上昇に転

じました。その後は政府による大規模経済対策が策定され、5月から短期国債が大幅に増発されたことから利回りは上昇基調をたどりましたが、日銀が短期国債買入額を増額したことから利回り上昇は一服しました。国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.290%に対し、期末は-0.090%へ上昇しました。

▶ ポートフォリオについて (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

2%の物価安定目標の達成が展望出来ない中、日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏での推移を想定します。

残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.005% (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.005	

期中の平均基準価額は9,975円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	特殊債券	9,516	(7,200)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2020年10月12日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率	5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
	千円	千円	%	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	9,400 (9,400)	9,461 (9,461)	74.8 (74.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	74.8 (74.8)
合 計	9,400 (9,400)	9,461 (9,461)	74.8 (74.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	74.8 (74.8)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種 類	銘	柄	期		末	
			利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
			%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第124回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.2	2,400	2,406	2020/12/28
	第133回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.3	2,300	2,316	2021/4/30
	第135回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.1	2,400	2,417	2021/5/31
	第142回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.0	2,300	2,321	2021/8/31
合 計		計	—	9,400	9,461	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 投資信託財産の構成

(2020年10月12日現在)

項 目	期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
	千円	%	千円	%
公 社 債	9,461	74.8		
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,186	25.2		
投 資 信 託 財 産 総 額	12,647	100.0		

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年10月12日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	12,647,720円
コー・ロ・ン等	3,154,457
公 社 債(評価額)	9,461,469
未 収 利 息	29,022
前 払 費 用	2,772
(B) 負 債	53
未 払 利 息	8
そ の 他 未 払 費 用	45
(C) 純 資 産 総 額(A - B)	12,647,667
元 本	12,685,274
次 期 繰 越 損 益 金	△ 37,607
(D) 受 益 権 総 口 数	12,685,274口
1 万 口 当 ち 基 準 価 額(C / D)	9,970円

※当期における期首元本額10,580,853円、期中追加設定元本額2,104,421円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

ヘルスケア・リート・プラス	3,392,751円
米国・地方公共事業債ファンド(為替ヘッジあり)	50,056円
米国・地方公共事業債ファンド(為替ヘッジなし)	28,023円
世界コーポレート・ハイブリッド証券ファンド2017-03	871,211円
ライフ・ジャーニー(かしこく育てるコース)	2,543,560円
ライフ・ジャーニー(かしこく使うコース)	2,453,434円
ライフ・ジャーニー(充実して楽しむコース)	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド(資産成長型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(3%目標受取型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(6%目標受取型)	100,141円
人生100年応援ファンド(資産成長コース)	64,109円
人生100年応援ファンド(ちよっぴり受取コース)	32,055円
人生100年応援ファンド(おもいっきり受取コース)	24,041円
MF S・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクイティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリプル(予想分配金提示型)	300,632円
ボンド・ゼロトリプル(資産成長型)	300,632円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2019年10月16日 至2020年10月12日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	94,739円
受 取 利 息	97,728
支 払 利 息	△ 2,989
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△105,952
売 買 損	△105,952
(C) 信 託 報 酬 等	△ 683
(D) 当 期 損 益 金(A + B + C)	△ 11,896
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 21,290
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 4,421
(G) 計 (D + E + F)	△ 37,607
次 期 繰 越 損 益 金(G)	△ 37,607

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。